

犬は雑食性。何でも食べるからこそ注意！



猫は肉食、犬は雑食性。甘いもの好き?!
 犬はもともと猫と同じように肉食動物ですが、人間と暮らしていくうち徐々に雑食性へと変化していきました。比較的何でも食べ、人間と同じようにけっこう甘いもの好き。ついつい食べ過ぎて、ダイエットが必要なメタボ犬が増えてきているのは人間と同じです。ただし、味の感じ方は、人間ほど敏感ではありません。人間の舌には味を感じる「味蕾(みらい)」が6,000~9,000個近くあるのに対し、犬は2,000個弱、猫は1,000個以下。犬は人間ほどグルメとはいえないけど、猫より味が分かる舌をもっているといえます。また、人間は五感で食事を楽しみますが、犬は匂い(食感)味(見た目)の順で食事を吟味しているといわれています。

5大栄養素をバランスよく。新鮮な水も大切
 愛犬の健康のためには、栄養素をバランスよく体内に取り入れ食生活を送ることが大切です。健康を維持するために必要な栄養素は、身体の土台をつくりエネルギー源となる「タンパク質」「脂肪」「炭水化物」の3大栄養素と、身体の機能を調整する「ビタミン」「ミネラル」を加えた5大栄養素。もともと肉食だった犬は、人間より高タンパク、高脂肪の食事を必要としています。水は犬の体の半分以上を占め、生きていくために欠くことのできないもの。健康であれば飲み過ぎを心配する必要ないので、いつでも新鮮な水が飲めるように用意しておいてください。

ドッグフードの種類

世の中にはさまざまなドッグフードが市販されています。どのようなものがあるのか、簡単にまとめておきます。

【総合栄養食】

毎日の主食として与えるフード。ライフステージに合った栄養素をバランスよく配合し、新鮮な水と一緒に与えるだけで健康維持ができるように考えられています。ペットフード公正取引協議会が栄養成分の基準を満たしていれば「総合栄養食」と表示。

【間食】

ジャーキーやガムのようなおやつやスナック。こればかり与えては栄養バランスが崩れ、与えすぎはカロリーオーバーで肥満の原因になるので注意。

【その他】

「一般食(おかずタイプ)」「一般食(総合栄養食と一緒に与えてください)」「カロリー補給食」「副食」などの表示があり、栄養の調整やカロリー補給、嗜好増進などを目的としたフードもあります。

ドッグフードのタイプと特徴

ドッグフードは、フードの中の水分含有量によって、いくつかのタイプに分けられています。

【ドライフード】

水分含有量が10%以下で、カリカリになった固形状のフード。経済的で、保存性が高い。十分な水と一緒に与えるようにします。

【半生フード】

水分含有量が25~35%程度のフード。風味や嗜好性が高く、やわらかくて食べやすいので、子犬や高齢犬にも向いています。

【ウェットフード】

水分が75%以上含まれているフード。缶詰やアルミトレイ、レトルトタイプなどに多く、牛肉、鶏肉、魚などの素材の味をそのまま生かすことができます。開封後は早めに与えます。

Aikenka Navigation

愛犬家住宅ナビゲーション

愛犬家住宅

AJutaku

Vol.33 || Free



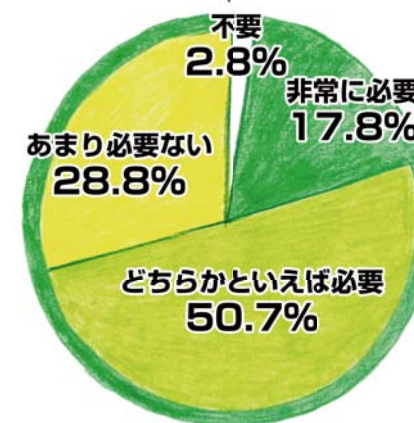
築30年のお家を愛犬リフォーム!

「築30年の家を今のライフスタイルに!」 人も愛犬も暮らしやすい愛犬家リフォーム。

「家が欲しい」と思い立ったとき、最近では、新築住宅を建てる・買うというパターンだけではなく、「中古住宅を購入してリフォームする」という選択肢を選ぶ方が多くなってきました。中古住宅を選ぶメリットとしては、「比較的便利な立地にある」、「新築住宅より低予算で家が手に入る」といったものが挙げられ、良い物件に出会うことができれば、相当お得にマイホームを取得することが可能になります。とはいっても、「家の中身がどうなっているかわからない」といったデメリットもあり、中古住宅購入を躊躇される方も少なくありません。

どちらを選ぶにしても、できることであれば、「いい家(建物や立地)を出るだけ安く手に入れたい」と誰もが思うことかもしれません。右のグラフは、愛犬家の方々家がづくりをされる際に、「詳しい人のアドバイスが必要か?」というアンケート結果で、68%の方々が必要だと回答しました。良い家を手に入れるためにプロのアドバイスが必要なと同様、良い愛犬家住宅を造るためには、犬に詳しいプロのアドバイスは必要です。今回ご紹介する事例も、愛犬家住宅のプロが手掛けた、「中古住宅リフォーム」ですので、参考にいただければ幸いです。

住まいづくりや住まいさがしに、犬に詳しい人のアドバイスは必要ですか?



愛犬と幸せに暮らす住まいの本

A5判並製・128ページ(オールカラー) 定価:本体1,500円+税
 愛犬家住宅(編) PHP研究所(刊)

「床の滑り」「ニオイ」「キズ・汚れ」...
 だけじゃない!

家づくりのヒントとなる21の事例を紹介

お問い合わせ先

愛犬家の快適な住まいづくりを応援します
愛犬家住宅
 愛犬家住宅 検索



愛犬と「一緒に過ごす」 自由な空間を実現しました!



愛犬と室内で一緒に暮らす場合、「人と愛犬のエリアを分ける方法」と「空間を分けずにいつでも一緒に暮らす方法」に分けられますが、今回のリフォームでは、愛犬がいつでも自由に家の中を移動できる「一緒に過ごすライフスタイル」を実現しました。和室（畳）は洋室にリフォームし、1階の床面は、通常のフローリングでは愛犬に負担がかかるため、快適に過ごせる「滑りにくいフローリング」に張り替えました。また、要所では「キズの付きにくい床材」や「シミになり難い床材」など、お互いが快適に暮らすための素材選びをしました。

中古住宅は、細かい部分への心配りがポイント!!

Before

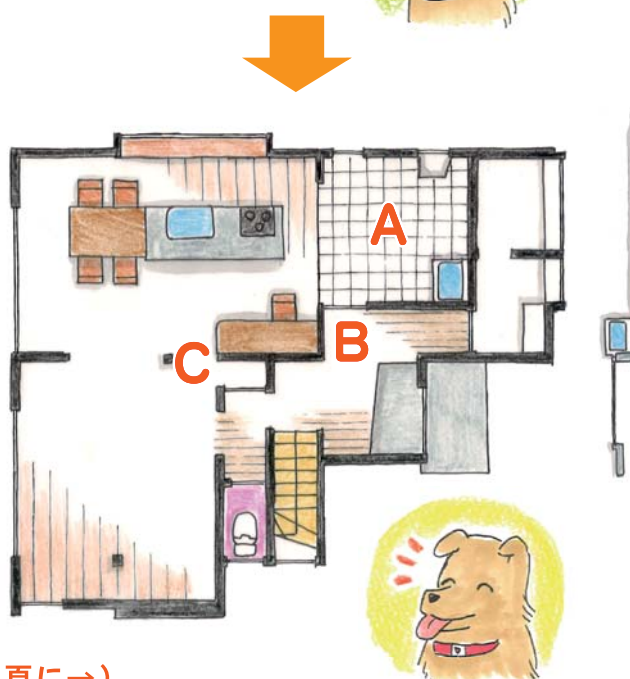
リフォーム前の間取りでは、愛犬が自由に活動できるスペースがほとんどありません。こういった間取りで愛犬と室内で暮らす場合、リビングの一角にケージなどを用意するといった手法が主流で、愛犬にとってはリビングしか活動できるスペースがないため、ストレスが溜まりやすくなってしまいます。



After

リフォーム後の間取りでは、まず、愛犬の活動できるスペースが格段に増えたことが大きな変化となっていて、自由に家の中を歩き回れるような工夫が施されています。

散歩から帰ってきた際には、玄関ポーチ横に設置した「立水栓」で泥を落とせるようにしたことや、立水栓横を通り裏口に回ると、愛犬用出入口があり、濡れた体でもすぐに室内に入れるようなスペースを新設。いつでも一緒に過ごせるように愛犬専用の洗面台も設置し、ニオイや汚れをしっかりと落としてリビングに入れるようになっています。



(図内のABCの解説は次頁に→)

リフォームポイント①



床のすべりや段差の解消!!

すべりやすい床は愛犬の足腰に負担を与えてしまいます。ひどいケースでは、腰痛や関節症を引き起こしてしまうこともあるため対策は重要です。また、中古住宅では、小さな段差がたくさんあるため足を引っ掛けて怪我をすることもあります。そこで、床の段差を解消し、床材には「ペット用の床材」を採用することで快適な暮らしを実現しました。

リフォームポイント②

犬兼用洗面化粧台で愛犬も清潔!!

愛犬と一緒に暮らすと気になるものの1つに「ニオイ」があります。そこで、愛犬専用の洗面台「Bonito」を設置し、ニオイ発生を軽減させる工夫を施しました。マイクロバブルで毛穴の汚れまで落とせる機能や浴槽のように体全体がスッポリ入る仕様で快適に使用できます。

リフォームポイント③

壁や床材の汚れを素材で解消!!

愛犬が付けてしまった汚れは、意外としつこく頑固です。またシミになってしまうことも多々あります。そこで、壁紙には撥水機能がついた素材を使用し、おしっこ等で汚れてしまっても簡単に拭き取ることができ、床材にはシミの付きにくい素材を採用しました。

「大きく変えるポイント」と「ちょっとした工夫で出来ること」 素材選びや造作で、より暮らしやすい空間を演出。



A お手入れは 広々スペースで快適に!

ほとんど別室となっていたキッチン&リビング、さらには和室の壁を取り壊して広々リビングを実現し、以前キッチンがあった場所を愛犬用スペースにしました。床もお掃除がしやすいタイルにし、洗面化粧台もワンちゃんが洗えるものを設置しました。ワンちゃんのことと家事をゆったりできるスペースができました。

B 家中を遊び回れる小さな工夫!

図面のBにあたる箇所のドアには、小さな小窓を設け、愛犬がいつでも自由に入出入りできる工夫を施しました。こうすることで、愛犬が家中をクルクルと自由に回れるようになり、ストレスフリーな暮らしが可能になります。自由に走り回れる空間にすることで注意が必要なのは、「床の素材」です。走り回ってもけがをしない、足腰に負担をかけない素材を選ぶことも、とても重要になってきます。

C 自分だけの居場所で 安心感を!!

玄関横にあった階段下の収納スペースを上手に活用して、愛犬のプライベートスペースを確保しました。元々は廊下に面していた収納スペースの開閉部を閉じ、リビング側に開口部を変更することで、人のくつろぎ空間と愛犬のくつろぎスペースを同居させることに成功。階段下のデッドスペースは高さが低くなり、あまり活用方法がありませんが、愛犬にとっては十分なスペースになり、プライベート空間を提供することが出来ました。

プロのアドバイスをもとに考えた、 愛犬家住宅リフォームだから「安心な暮らし」が可能に!

大切な愛犬と快適な暮らしを送るためには、愛犬とどのような暮らしを送りたいかという、「ライフスタイル」をしっかりと考え、それらをもとに「愛犬にとって必要な設備」をどこに設置するかといった計画が重要になってきます。人が家事動線を考えて間取りを計画するのと同じように、愛犬家住宅では、人の動線と「愛犬の動線」を考慮して間取りを計画することがポイントになるのです。

今回の中古住宅リフォームでは、愛犬家住宅を手掛けるプロフェッショナルが、愛犬と人の生活リズム、生活動線を考え、必要最低限な工事で快適な暮らしを実現しました。大規

模なりノベーションではなく、古い間取りを活かしながら、大事な部分だけを大胆にリフォームすることで「予算」をしっかりと守りながら、理想の暮らしを手にも可能です。愛犬のための「過ごしやすい環境づくり」「健康で長生きできる空間づくり」、そして、愛犬だけのためではなく、人にとって「愛犬の世話が軽減できること」も計算した、よりよい環境へと変えていくことが「愛犬家住宅コーディネーター」と一緒に作り上げる愛犬家住宅の醍醐味と言えるのではないのでしょうか。

